

平成 19 年 8 月 20 日

立命館大学ワンダーフォーゲル会  
OB・OG 各 位

漂雲 45 周年山小屋特集号  
編集発行人 鎌田 克則

## お断りとお願い

これこそ突然何のお断りもなく、「漂雲」山小屋建設 45 周年記念「山小屋特集号」をお送りしたことをお許しください。

ご一覽いただけるとお判りかと存じますが、歳からして山小屋建設後 50 年後では待てないとの事情で、45 年目に山小屋建設に係わった人たちが中心に、正しく人生のモニュメントたるあの山小屋の建設の動機、過程、維持、利用に関する諸々の記録や思い出を、何としても遺しておきたいとの思い一心で出来上がったものです。

ですからこの冊子を手にとって、一瞬でもあの山小屋に想いを馳せ、若きワングル時代の思いに浸っていただけるなら、そしていつかあの山小屋を訪ねてみようと思われるなら、それだけで資料・写真を集め、原稿を書き、編集し、印刷、発送に係わった人達に取っては、正しく編集冥利に尽きる話なのです。

しかし若干現実の話をしなければなりません。本来ならば皆さんにご注文をお聞きした後に、それらの方々に発送すべきです。ところが現在住所が把握できている RUWV の OB・OG・現役は約 630 名、(この管理は 40 年卒 福井邦彦さんのお陰)、手間とコストの関係でそれはとても無理なのです。特に追加注文に対応できません。それで結局 700 冊印刷し、今般全員にお断りなく送らせていただきました。且つ、無礼承知で 3,000 円記入の払い込み用紙を同封させていただきました。

舞台裏を申しますと、送り届けた 630 名のうち、現役を除く 350 名の方よりお振込みいただければ、実費が賄える算段です。勿論、余れば山小屋維持管理基金に入れます。その収支は巻末記載の畑中健さんのホームページに報告させていただきます。

よくできている。久しぶりに若き日を思い起こさせてくれた。いつか山小屋を訪ねる気になった。自分の山小屋としてリザーブしておきたい。配偶者や子・孫に自慢できた…何等か共鳴いただける処がありましたなら、何卒払込用紙を持って郵便局に足をお運びください。種は蒔いたが…正直祈る思いで待っております。

では何のお断りもせず漂雲山小屋特集号を送り付け、払込用紙まで同封いたしましたことを、改めてここにお詫び申し上げます。

追伸1 RUWVOB 会は同期の絆は太いが、縦の連携は薄いと言われています。願わくば、この機会に、インターネットをされている方は、畑中さんの HP、漂雲、RUWVOB の掲示板をクリックして、山小屋行き等の情報交換を図り、交流の頻度を増しましょう。

2 この冊子を送るために福井さんが、名簿(卒業年度順)を、アイウエオ順に整理したら、同姓同住所のご夫婦が、何と 15 組 30 人もあったそうです。

RUWV も 50 年経つと色々結果が出てくるものなのですねえ。